

【専門看護師教育課程 (38単位)】

共通科目A照合表

基準の科目名	大学院の該当科目	その科目の内容	単位	
			履修単位	認定単位
看護教育論	看護教育学特論	看護ケアの質を高めるために必要な教育の原理とその機能を理解し、高度実践看護師として教育的働きかけができる能力を修得する。また、教育環境の整備、継続教育や生涯教育についても学びを深める。	2	2
看護管理論	看護管理学特論	看護管理におけるマネジメント、リーダーシップ、多職種との協働・調整、安全管理、スタッフ教育や意思決定について学び、看護管理における分析の視点や問題解決能力を養い、実践に必要な能力を修得する。	2	2
看護研究	看護研究方法論	科学的根拠に基づいた看護実践を展開する上で必要な看護技術の向上や開発を図るために、研究プロセスを理解し、看護実践における研究活動に必要な基礎的研究能力を修得する。	2	2
コンサルテーション論	コンサルテーション論	高度実践看護師としての役割遂行に必要な能力を深めるため、コンサルテーションの基本的概念とプロセスを理解し、コンサルタントとしての技術を養いコンサルテーションの実践に必要な能力を修得する。	2	2
			認定合計単位 8単位	

共通科目B照合表

基準の科目名	大学院の該当科目	その科目の内容	単位	
			履修単位	認定単位
臨床薬理学	臨床薬理学	対象の健康問題に応じた薬物治療が効果的かつ安全に行われるために、薬物の生体に対する生理学的、生化学的な影響、作用メカニズム、薬物動態について理解し、回復力の促進に向けた生活調整や服薬管理能力の向上に必要な知識と技術を修得する。	2	2
フィジカルアセスメント	フィジカルアセスメント	複雑な健康問題を抱える対象の身体状況を包括的に査定するために必要なフィジカルアセスメントの知識と技術を修得する。	2	2
病態生理学	病態生理学	身体の生理学的メカニズムを理解し、疾病の成因、症状および診断・治療についての知識を深め、対象の病態生理学的変化の解釈、判断に必要な技術を修得する。	2	2
			履修合計単位 6単位	

## 看護教育学特論（共通科目）

2単位：30時間（春学期）

科目責任者 中島 恵美子（本学教授）

1. 教育目的：看護ケアの質を高めるために必要な教育の原理とその機能を理解し、高度実践看護師として教育的働きかけができる能力を修得する。また、教育環境の整備、継続教育や生涯教育について学びを深める。
2. 教育目標：
  - 1) 教育的機能の原理を学ぶ。
  - 2) 高度実践看護師に必要とされる教育的機能を理解し、実践で活用できる方法を学ぶ。
  - 3) 高度実践看護師の能力向上に必要な継続教育の実際について学ぶ。
3. 教育内容：
  - ① 看護教育学総論
  - ② 看護基礎教育と継続教育の概要と展望
  - ③ 看護教育における教育評価
  - ④ 患者教育における指導と評価
  - ⑤ 高度実践看護師の教育的機能の理論と実際
  - ⑥ 高度実践看護師育成プログラムと教育的機能
  - ⑦ 高度実践看護師の役割機能と実際(1)
  - ⑧ 高度実践看護師の役割機能と実際(2)
  - ⑨ 高度実践看護師の役割機能と実際(3)
  - ⑩ 高度実践看護師の継続教育の実際
  - ⑪ 高度実践看護師の継続教育とその課題
  - ⑫ 看護実践におけるスタッフ教育(1)
  - ⑬ 看護実践におけるスタッフ教育(2)
  - ⑭ 看護ケア向上のための能力開発(エンパワメントと看護教育)
  - ⑮ 看護ケア向上のための能力開発(ケアリングと看護教育)
4. 教育の進め方：

講義、学生のプレゼンテーションで行う。

初回の講義において進め方、課題について具体的に説明する。

  - (1) 講義・討議：①②③⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪
  - (2) 発表・討議：④⑫⑬⑭⑮

【教科書・参考図書】

杉森みど里，舟島なをみ著(2021)看護教育学. 第7版, 医学書院.

田島桂子著(2009)看護学教育評価の基礎と実際-看護実践能力育成の充実に向けて. 医学書院.

Ann B. Hamric, Charlen M. Hanon, Mary Fran Tracy, Eileen T. OGrady. (2014)ADVANCED PRACTICE NURSING An Integrative Approach. 5<sup>rd</sup> edition/中村美鈴, 江川幸二訳(2017)高度実践看護 統合的アプローチ. へるす出版. その他、参考図書については適宜、紹介する。

【事前学習】講義:各回で扱うテーマに関連する内容についてまとめ、疑問点を整理しておく。

発表:発表資料を作成し、討議したい点について明らかにしておく。

【事後学習】講義内容、討議内容について振り返り、復習する。
5. 成績評価方法：プレゼンテーション(40%)、課題レポート(60%)

## 看護管理学特論（共通科目）

2単位：30時間（春学期）

科目責任者 佐藤 澄子（本学非常勤講師）

1. 教育目的：看護管理におけるマネジメント、リーダーシップ、多職種との協働・調整、安全管理、スタッフ教育や意思決定について学び、看護管理における分析の視点や問題解決力を養い実践に必要な能力を修得する。

2. 教育目標：1)看護管理における機能・役割について理解できる。  
2)看護管理に関する質の高い実践能力を養うことができる。  
3)保健医療福祉や看護管理に携わる人々と協働・調整を図ることができる。  
4)高度実践看護師の役割遂行に必要な看護管理のあり方を考察できる。

3. 教育内容：

- ① 看護管理学総論
- ② 看護管理における人材育成とキャリア開発
- ③ 組織における意思決定とマネジメント(1)
- ④ 組織における意思決定とマネジメント(2)
- ⑤ 組織におけるリーダーシップ行動とマネジメント能力の開発(理論と実際1)
- ⑥ 組織におけるリーダーシップ行動とマネジメント能力の開発(理論と実際2)
- ⑦ 医療の質と看護サービスの質評価と改善
- ⑧ 看護職と保健医療福祉の多職種協働に影響を及ぼす政策・制度(1)
- ⑨ 看護職と保健医療福祉の多職種協働に影響を及ぼす政策・制度(2)
- ⑩ 医療安全管理(1)
- ⑪ 医療安全管理(2)
- ⑫ 看護管理実践における諸理論と人的資源管理(1)
- ⑬ 看護管理実践における諸理論と人的資源管理(2)
- ⑭ 看護管理実践過程における課題解決方法(1)
- ⑮ 看護管理実践過程における課題解決方法(2)

4. 教育の進め方：

講義、学生のプレゼンテーションで進行する。

初回の講義において進め方、課題について具体的に説明する。

(1) 講義・討議：①②⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪

(2) 発表・討議：③④⑫⑬⑭⑮

【教科書・参考図書】 ガイダンス時に指示する。

【事前学習】 講義：各回で扱うテーマに関連する内容についてまとめ、疑問点を整理しておく。

発表：発表資料を作成し、討議したい点について明らかにしておく。

【事後学習】 講義内容、討議内容について振り返り、復習する。

5. 成績評価方法：プレゼンテーション(40%)、課題レポート(60%)

## 看護研究方法論（共通科目）

2単位：30時間（春学期）

科目責任者 大木 幸子（本学教授）

1. 教育目的：科学的根拠に基づいた看護実践を展開する上で必要な看護技術の向上や開発を図るために、研究プロセスを理解し、看護実践における研究活動に必要な基礎的研究能力を修得する。
2. 教育目標：1)看護実践における問題意識から研究課題を導くことが理解できる。  
2)研究課題から研究目的と方法が理解できる。  
3)研究論文のクリティークを行うことができる。  
4)研究成果の活用方法が理解できる。
3. 教育内容：
  - ① 看護研究の意義と役割
  - ② 文献検索演習
  - ③ 研究課題の決定と位置づけの検討、論文クリティーク
  - ④ 量的研究方法の概要(1)
  - ⑤ 量的研究方法の概要(2)
  - ⑥ 量的研究における測定方法の計画
  - ⑦ 量的研究におけるデータ分析(1)
  - ⑧ 量的研究におけるデータ分析(2)
  - ⑨ 量的研究におけるデータ分析(3)
  - ⑩ 量的研究における論文クリティーク
  - ⑪ 質的研究方法の基本的考え方
  - ⑫ 質的研究方法の概要(1)
  - ⑬ 質的研究方法の概要(2)
  - ⑭ 質的研究における論文クリティーク
  - ⑮ 研究成果の臨床への応用
4. 教育の進め方：

講義、学生のプレゼンテーションを中心に行う。

初回の講義において進め方、課題等について具体的に説明する。

(1)講義・討議：①③④⑤⑥⑪⑮

(2)文献検索演習：②

(3)発表・討議：⑦⑧⑨⑩⑫⑬⑭

【教科書・参考図書】 ガイダンス時に指示する。

【事前学習】講義：各回で扱うテーマに関連する内容についてまとめ、疑問点を整理しておく。

発表：発表資料を作成し、討議したい点について明らかにしておく。

【事後学習】講義内容、文献検索演習内容、討議内容について振り返り、復習する。
5. 成績評価方法：プレゼンテーション(40%)、課題レポート(60%)

## コンサルテーション論（共通科目）

2 単位：30 時間（秋学期）

科目責任者 浅沼 奈美（本学教授）

1. 教育目的：高度実践看護師としての役割遂行に必要な能力を深めるため、コンサルテーションの基本概念とプロセスを理解し、コンサルタントとしての技術を養い、コンサルテーションの実践に必要な能力を修得する。
2. 教育目標：1) 講義や事例分析などからコンサルタントとしての技術を養うことができる。  
2) コンサルテーションの現状と課題を明らかにすることができる。

### 3. 教育内容：

- ① コンサルテーションの基本概念
- ② コンサルテーションの役割機能とプロセス
- ③ コンサルテーションと高度実践看護師の役割（1）
- ④ コンサルテーションと高度実践看護師の役割（2）
- ⑤ 高度実践看護師によるコンサルテーションの実際（1）
- ⑥ 高度実践看護師によるコンサルテーションの実際（2）
- ⑦ 看護組織におけるコンサルテーション
- ⑧ 多職種チームとコンサルテーション
- ⑨ コンサルテーションの実際 - ロールプレイ（1）
- ⑩ コンサルテーションの実際 - ロールプレイ（2）
- ⑪ コンサルテーションの実際 - 事例分析（1）
- ⑫ コンサルテーションの実際 - 事例分析（2）
- ⑬ コンサルテーションの実際 - 事例分析（3）
- ⑭ コンサルテーションの実際 - 事例分析（4）
- ⑮ 高度実践看護師によるコンサルテーションの現状と課題

### 4. 教育の進め方：

学生のプレゼンテーション、ロールプレイを中心とし、講義を入れながら行う。  
初回の講義において進め方、課題について具体的に説明する。

- (1) 講義・討議：①②⑤⑥⑦⑧⑨
- (2) 発表・討議：③④⑫⑬⑭⑮
- (3) グループワーク：⑩⑪⑫⑬⑭

【教科書・参考図書】 ガイダンス時に指示する。

【事前学習】 講義：各回で扱うテーマに関連する内容についてまとめ、疑問点を整理しておく。

発表：発表資料を作成し、討議したい点について明らかにしておく。

グループワーク：テーマに従い内容についてまとめ、疑問点を整理しておく。

【事後学習】 講義内容、討議内容、グループワークについて振り返り、復習する。

5. 成績評価方法：プレゼンテーション(40%)、課題レポート(60%)

## フィジカルアセスメント（共通科目）

2単位：30時間（春学期）

科目責任者 加賀谷 聡子（本学教授）

1. 教育目的：複雑な健康問題を抱える対象の身体状況を包括的に査定するために必要なフィジカルアセスメントの知識と技術を修得する。
2. 教育目標：1) フィジカルアセスメントの概念を理解しその意義が説明できる。  
2) フィジカルイグザミネーションの技法を習得し、対象の症状、身体所見の正常・異常について識別し解釈できる。  
3) 対象者の健康問題が日常生活に与える影響をアセスメントし臨床判断ができる。  
4) アセスメントの結果を看護支援の根拠および効果測定・評価の指針にできる。
3. 教育内容：
  - ①②フィジカルアセスメント 総論
  - ③④精神機能のアセスメント
  - ⑤⑥呼吸器系のフィジカルアセスメント
  - ⑦⑧呼吸器系のフィジカルイグザミネーションの実際
  - ⑨⑩循環器系のフィジカルアセスメント
  - ⑪⑫循環器系のフィジカルイグザミネーションの実際
  - ⑬⑭消化器系・内分泌代謝系のフィジカルアセスメント
  - ⑮⑯消化器系・内分泌代謝系のフィジカルイグザミネーションの実際
  - ⑰⑱腎・泌尿器系のフィジカルアセスメント、フィジカルイグザミネーションの実際
  - ⑲⑳女性生殖器系のフィジカルアセスメント、フィジカルイグザミネーションの実際
  - ㉑㉒運動器系のフィジカルアセスメント、フィジカルイグザミネーションの実際
  - ㉓㉔感覚器系のフィジカルアセスメント、フィジカルイグザミネーションの実際
  - ㉕㉖中枢神経系のフィジカルアセスメント
  - ㉗㉘中枢神経系のフィジカルイグザミネーションの実際
  - ㉙㉚フィジカルアセスメントの統合（臨床所見と統合的臨床判断の実際まとめ）
4. 教育の進め方：フィジカルアセスメントの方法について講義とシミュレータ機器を活用した技術演習を行う。初回の講義において進め方について説明する。
  - (1) 講義・討議：①②③⑤⑥⑨⑩⑬⑭⑮⑰⑱⑲⑳㉑㉓㉕㉖
  - (2) 演習：④⑦⑧⑪⑫⑮⑯⑱⑳㉑㉒㉓㉔㉗㉘
  - (3) 発表・討議：㉙㉚

【教科書・参考図書】 ガイダンス時に指示する。

【事前学習】 講義・演習：各回で扱うテーマに関連する解剖生理およびフィジカルイグザミネーションの基本的手技について確認し、疑問点を整理しておく。  
発表：資料を作成し、討議したい点について明らかにしておく。

【事後学習】 講義・演習・討議内容について振り返り、復習する。
5. 成績評価方法：プレゼンテーション(40%)、課題レポート(60%)

## 病態生理学（共通科目）

2単位：30時間（春学期）

科目責任者 岩楯 桜子（本学教授）

1. 教育目的：身体の生理学的メカニズムを理解し、疾病の成因、症状および診断・治療についての知識を深め、対象の病態生理学的変化の解釈、判断に必要な技術を修得する。
2. 教育目標：1)各組織の生理学的変化の機能・構造とその病理学的現象とを関連付けて説明できる。  
2)機能異常をきたした疾患の病態生理学的変化を理解し、判断することができる。  
3)診断に必要な検査について理解し、対象に必要な支援につなげることができる。
3. 教育内容：
  - ①② 病態生理学総論
  - ③④ 呼吸障害の発症のメカニズム
  - ⑤⑥ 循環障害の発症のメカニズム
  - ⑦⑧ 消化・吸収機能障害の発症のメカニズム
  - ⑨⑩ 内分泌・代謝機能障害の発症のメカニズム
  - ⑪⑫ 脳・神経機能障害の発症のメカニズム
  - ⑬ 腎機能障害の発症のメカニズム
  - ⑭ 感覚器障害の発症のメカニズム
  - ⑮ 専門看護師に必要とされる病態生理学の知識と判断
4. 教育の進め方：

講義を中心として進めるが、必要に応じ学生によるプレゼンテーション並びにグループワークを行う。初回の講義において進め方、課題について具体的に説明する。

  - (1)講義・討議：①～⑭
  - (2)発表・討議：⑮

【教科書・参考図書】 ガイダンス時に指示する。

【事前学習】講義：各回で扱うテーマに関連する内容についてまとめ、疑問点を整理しておく。  
発表：発表資料を作成し、討議したい点について明らかにしておく。

【事後学習】講義内容、討議内容について振り返り、復習する。
5. 成績評価方法：プレゼンテーション(40%)、課題レポート(60%)

## 臨床薬理学（共通科目）

2単位：30時間（春学期）

科目責任者 西村 伸大（本学准教授）

1. 教育目的：対象の健康問題に応じた薬物治療が効果的かつ安全に行われるために、薬物の生体に対する生理学的、生化学的な影響、作用メカニズム、薬物動態について理解し、回復力の促進に向けた薬物療法の継続に必要な知識と技術を修得する。
2. 教育目標：1) 薬物の体内動態、薬物の薬力学を理解し、薬剤使用の判断ができる。  
2) 病態に応じた薬物治療について理解できる。  
3) 対象への安全な薬剤投与方法を理解し、投与後の患者モニタリングができる。  
4) 薬物療法を受ける対象の生活調整や、服薬管理能力の向上を図るための支援のあり方が理解できる。
3. 教育内容
  - ① 臨床薬理学総論（1）
  - ② 臨床薬理学総論（2）
  - ③ 薬物の体内動態
  - ④ 薬物の相互作用
  - ⑤ 交感神経系作用薬
  - ⑥ 副交感神経系作用薬
  - ⑦ 中梢神経系作用薬（1）
  - ⑧ 中梢神経系作用薬（2）
  - ⑨ 中梢神経系作用薬（3）
  - ⑩ 中梢神経系作用薬（4）
  - ⑪ 消化管機能調整薬
  - ⑫ 内分泌・代謝系作用薬
  - ⑬ 抗悪性腫瘍薬（1）
  - ⑭ 抗悪性腫瘍薬（2）
  - ⑮ 薬物療法を受ける患者への薬物管理と生活調整の支援
4. 教育の進め方：

講義を中心として進めるが、必要に応じ学生によるプレゼンテーション並びにグループワークを行う。初回の講義において進め方、課題について具体的に説明する。

  - (1) 講義・討議：①～⑭
  - (2) 発表・討議：⑮

【教科書・参考図書】ガイダンス時に指示する。

【事前学習】講義：各回で扱うテーマに関連する内容についてまとめ、疑問点を整理しておく。

発表：発表資料を作成し、討議したい点について明らかにしておく。

【事後学習】講義内容、討議内容について振り返り、復習する。
5. 成績評価方法：プレゼンテーション(40%)、課題レポート(60%)